

2019 年度 小委員会活動成果報告

(2020 年 2 月 7 日作成)

小委員会名	建築・空間ストック活用小委員会		主 査 名：納村 信之 就任年月：2018 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	建築計画委員会 (設計計画・構法計画運営委員会)		委員長名：広田 直行 主 査 名：角田 誠
設 置 期 間	2018 年 4 月 ～ 2020 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>本小委員会では、建設時の発想や最適化だけで建物、構法を捉えるのではなく、建物の利用方法やニーズの変化といった時間軸を踏まえて、建物の再生方法を研究していく。さらに、建物を取りまく住環境をどのように向上していくか、国際的に確立されたオープンビルディングの計画手法を参考に研究を展開していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長期利用が可能な集合住宅及びその他の建築物の計画／設計／施工技術 ・マスハウジング期建物、及び、団地のストック活用手法と周辺エリアの住環境の再生手法 ・住宅におけるカスタマイゼーション手法の体系化（新築、改修とも） <p>同時に CIB W104 (Open Building Implementation) の日本窓口として、オープンビルディングに関する研究・実績・教育の普及活動にも取り組む。</p>		
委員構成 (委員名 (所属))	<p>委員公募の有無：無</p> <p>主査：納村信之 (名古屋商科大学) 幹事：田島則行 (千葉工業大学) 土井脩史 (京都橘大学) 委員：門脇耕三 (明治大学) 安達好和 ((株) アルク) 忍裕司 ((株) 竹中工務店) 村上心 (相山女学園大学) 石山央樹 (大阪市立大学) 藤原寛典 (積水ハウス (株)) 入江徹 (琉球大学) 鈴木あるの (京都大学)</p>		
設置 WG (WG 名：目的)	<p>オープンビルディング WG (主査:南一誠):本 WG では、国内外の具体的オープンビルディング事例の収集／整理や国外からの研究者との交流を行うことを活動目的とする。具体的には、委員が関係するプロジェクトの情報、委員の国内／国外ネットワークにより得られた情報の提供を行い、小委員会と協働してオープンビルディングの計画論に沿って整理を行う。</p>		
2019 年度予算	135,000 円	<p>ホームページ公開の有無：有 委員会 HP アドレス：http://news-sv.aij.or.jp/keikakusub/s13/</p>	

項 目	自己評価
委員会開催数	3 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	
大会研究集会	

<p>対外的意見表明・パブリックコメント等</p>	
<p>目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 3回の小委員会において、「Innovative Technologies for Sustainable and Adaptable Housing」(南委員)、「2020年ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展 日本館企画について」(門脇委員)、「日本の在来木造のタイへの輸出プロジェクト -日泰の木造構法国際比較研究の実務的展開-」(村上委員)などの建築・空間ストック活用に関する研究の話題提供と意見交換を行った。 2. 2019年7月の小委員会において、フランス人研究者 Tiphaine Abenia 氏による講演 (Architecture after Abandonment: Learning From Open Building)、馬凌翔氏による講演 (中国無錫市惠峰新村 98~107号棟における居住履歴と住宅の経年変化に関する研究) を行ってもらい、研究交流を図った。 3. 2019年6月に香港にて開催された CIB W104 WORLD CONGRESS 2019 に主査を含む2名の委員が参加し、セッションのモデレーターを務めるなどした。
<p>委員会活動の問題点・課題</p>	<p>オープンビルディング研究に関連する新しいテーマの開拓(次年度以降、ソーシャルハウジングの概念の再構築におけるオープンビルディングの可能性検討などのテーマ設定を行う予定)</p>